

泥江縣神社から堀川沿いに日置橋まで散策

25 期 谷田耕三

2 月 12 日那古野一丁目まちづくり研究会主催の堀川界限散策に参加しました。

この行事は、名古屋のまちを形成してきた人々の足跡や歴史的建造物を探る上で欠かせない清須越から近年まで名古屋の物流を支えてきた堀川や堀川界限の建造物を、まち歩きしながら探索するというもので今回が 3 回目です。

寒波襲来の寒い日でしたが、午後 1 時 30 分「ふれあい館えんどうじ」に歴史や散策が好きな若者？約 30 人が集まりました。

今回も柳田さんの案内で、コースは桜橋から堀川沿いに日置橋までの散策です。



泥江縣神社にて

私としては堀川美化活動でよく歩くコースですが、歴史的な見方で歩くと知らないところが沢山ありました。桜橋近くにある泥江縣神社は 895 年に築造した神社で、当時は中村区、西区、中区に及ぶ広大な社域を有していたとのこと。

またその近くの光明院には、航海の安全を見守る船に乗ったお地蔵さんがありました。全国的にも珍しいお地蔵さんだそうです。

錦橋命名由来碑や市民に愛されてきたお

馴染みの納屋橋の由来や旧加藤商会ビルの詳しい説明を受け、堀川ギャラリーで小休止。

19 日まで開催中の 30 期生の堀川展を参加者の皆さん興味深くご覧にいただきました。

このあと納屋橋掘割跡、愛知医学校跡、水主町変電所跡などの説明を受け、日置橋で終了となりました。1 時間半の散策は今後の考える会の活動に多いに参考になりました。

次回は最終回で 3 月 5 日「山英商店に見る豆味噌・溜の歴史」というテーマで行われます。



船に乗ったお地蔵さん（光明院）



納屋橋にて